

協力会社との よりよい関係が、 私たちの財産です。

● ひとつとして同じ現場はあります。地図、図面やボーリングデータを見た時に今まで蓄積された経験で、ある程度は施工内容がわかるので、問題がありそうな物件は、三誠とより細かに打ち合わせをします。あとは事前に現場に行って確かめようとしています。トヨフルの芽は事前に摘み取るようにして、常に次の物件受注につながるような施工をしています。リピーターにならざるを得ません。お客様と一緒に打ち合わせに、この機械なら大丈夫ですよ。とか、「先に何回まで掘っちゃいましょう。とか、常にできる提案をするようにしています。難しい物件が来た時は、社内の各機械の責任者が集まって「ああでもない、こうでもない」と話し合って対応するよつとしています。

三誠の強みについて。

● 三誠の強みのひとつに安全対策があると思します。定期的に安全協議会を開いて事故の事例を共有してくれるのと、それを社内に周知するようにしています。三誠の物件で事故が少ないのは、安全に対する意識が高いことだと思います。今まで鋼管杭は低層の住宅しか相手にされませんでしたが、三誠がここまでできるようになりました。示してくれたことで、ビルなどのへ



施工や施工現場でのやりとりについて。



第一工業



岩内基礎

新たな市場が広がったと思います。残土が出ないセメントも使わない杭を抜くときもラク。特に杭を抜く工事などは打つときよりもコスト高になることが少なくありません。次の世代や土地の再利用を考えると鋼管杭の優位性はさらに大きいと思います。

三誠はこれからも協力会社の「声」に耳を傾けながら、新たな製品の開発や市場の開拓に邁進したいと考えています。

**仕事はもちろん、
オフのイベントも
全員参加の仲の良さ。
チーム一丸となつて、
さらに販路を拡大します。**

関西営業所は開設して8年目を迎えます。社員も18名に増えて、以前の事務所が手狭になつたので、昨年11月に本社の事務所を移転と同じ日に3回目の事務所移転をしました。開設当時は15坪ほどの小さな事務所で、社員の誰かが大きな声で電話をすると他の人の電話が聞こえなくなつたことや、関西方面には他に営業所がなく、すべて大阪から出張を行っていたことなどが、とても懐かしく思い出されます。今では、名古屋、広島、福岡、那覇に営業所ができ、社員も関西営業所を含めると西日本本店だけで約40名となり、本当に組織が大きくなつたと実感しています。

メイントップ工法の販売実績がまだ足りないので、ECS-TTP工法の拡販に注力していきます。関西営業所は、西日本支店としての技術や購



工事部



営業部、技術部、購買部

関西営業所
営業所紹介 (11)
所長 板高 明彦

買の機能があるので、西日本の中心にならなければいけません。そのためには、これからも売上を伸ばし、今の新しい事務所に見合ったスタッフ数で早く拡大し、4回目の事務所移転ができるようにしたいですね。

明るく、楽しく、元気よく、チーム一丸となつて頑張る関西営業所を、これからも宜しくお願ひいたします。

● 三誠が鋼管杭の市場でトップシェアを獲ることができたのは、杭施工店や杭製作工場とコミュニケーションを取りながら、体感を持つて製品を開発し、製造し、施工してきたことが大きな要因のひとつと考えています。杭施工店から聞いたいたい、三誠に対するさまざまな声を集めました。

三誠の開発について。

● 三誠は机を売りながら同時に新しい製品を開発していく、開発の際には実験工事などを一緒にやつらいました。三誠の対するさまざまな声を集めました。

三誠が鋼管杭の市場でトップシェアを獲ることができたのは、杭施工店や杭製作工場とコミュニケーションを取りながら、体感を持つて製品を開発し、製造し、施工してきたことが大きな要因のひとつと考えています。杭施工店から聞いたいたい、三誠に対するさまざまな声を集めました。



テクノベース

ECS-TTP工法について。

● ECS-TTP工法は確実に市場が広がつていると思います。私たちも施工の精度を高めるため日々施工の練習をしています。最近はよりシンプルな施工条件を求められることも多く、このようないつも要求にも応えるべく現場の職人たちも細かく気配り、注意深く対応するようにしています。

● 三誠の凄いところは常に新しい製品を自社で開発するところだと思います。いつも新しいアイデアを考えて、次の時代に向けて新しい製品を作りました。そんな中からECS-TTP工法やECS-PJ工法、ECS-AW工法などの定期的な工法が生まれました。

皆が「こうなったらしい」と考えていたことを力方にします。特にECS-TTP工法は、柱に直結することで工期が短縮できるので、お客様に提案するに必ず喜んでもらいます。

ECS-AW工法は職人による能力の差が出来づらう安定した溶接仕事ができるのでとても助かっています。



東特

第8回 三誠セミナー』レポート

テーマ
被災地震の経験から立ち上がり、進化し続ける建築構造技術と建築構造設計
講師 東京理科大学 工学部 建築学科 教授 高橋治氏

昨日10月、第8回三誠セミナーを開催いたしました。

今回は講師として東京理科大学工学部建築科の高橋教授をお招きし、「被災地震の経験から立ち上がり、進化し続ける建築構造技術と建築構造設計」というテーマで講演していただきました。1995年の兵庫県南部地震から2016年の熊本地震まで、大きな地震を経験する度に進化していく新しい建築技術を紹介いただき、三誠のグループ会社である「三誠A-R断震システム」の可能性の話を多くお聞かせいただきました。

当社は地方からのお客様を含め、日本全国から100人以上の方々に来場いただき、建築構造技術と設計についての質疑応答が行われ、有意義な時間をお過ごすことができました。

セミナーの後には高橋教授を囲んだ懇親会が行われ、盛況に終えることができました。



新オフィスのサーバールームに、
地震対策としてA-R防振床を
設置しました。

三誠の 断震へのこだわり

1回の浮上時間は約45秒間で、搖れが続いている間に浮上し続けます。

万が一停電した場合

タンク1本で約10回浮上させることができます。

ターンクにより作動

します。

地震時安全性を高めるために、サーバーの下にA-R断震床を設置しました。地震センサーが25ガルの加速度を感じると、タンクから圧縮空気が送り込まれ、約0.5秒で空気によりサーバーを載せたA-R断震床が354kgにより浮上してサーバーが地震により揺れて転倒することを未然に防ぎます。

本社移転にともないサーバー設置するところだと思います。いつも新しいアイデアを考えて、次の時代に向けて新しい製品を作りました。そんな中からECS-TTP工法やECS-PJ工法、ECS-AW工法などの定期的な工法が生まれました。

皆が「こうなったらしい」と考えていたことを力方にします。特にECS-TTP工法は、柱に直結することで工期が短縮できるので、お客様に提案するに必ず喜んでもらいます。

です。